

青木村地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

青木村は、長野県の東北部、上田市の西部に位置する中山間地域である。村内の水田は全耕地面積の54%を占め、さらに水田基盤整備率は94%と進んでおり、水稻を中心とした栽培が行われている。また、水田の転作作物に占める面積の割合は、そば、麦、大豆が多く、これらの土地利用型作物は担い手への集積が進んでいる。

今後の課題として、主食用米の需要減が見込まれる中で、水稻以外の作物への作付転換を促進することにより、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、転作作物である、そば、麦、大豆については、排水不良、土壌酸度の不適正等により単収の低下を招いており、改善が必要となっている。

そのほか、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が懸念されている。

2 作物ごとの取組方針等

村内221ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

生産調整の実施を基軸に、ブロックローテーションを継続することにより、生産数量目安値に沿った作付面積を確保する。また、実需者ニーズが多様化してきていることから、需要に即した良質米の生産を推進する。

(2) 非主食用米

主食用米の需要減が見込まれる中、JAと連携し、需要先を確保したうえで、産地交付金を活用し、調整水田や自己保全管理水田等の作物不作付地における飼料用米・米粉用米の作付を推進し、水田を活用した食料自給率向上と生産調整の確実な実施を図る。

ア 飼料用米

輸入飼料の高騰に苦しむ畜産農家に対し安定的に国産の飼料を供給するため、米の生産調整の誘導品目の一つとして一定程度の作付を目指す。

イ 米粉用米

米粉の需要の伸び悩みが課題となっていることから、学校給食での村内産米粉利用による地産地消の推進や、米粉レシピの紹介などの普及・啓発活動を行うことにより、需要の底上げを図るとともに一定程度の作付面積を確保する。

ウ 新市場開拓用米

取組予定なし

エ WCS用稲

輸入飼料の高騰に苦しむ畜産農家に対し、安定的に国産の飼料を供給するため、米の生産調整の誘導品目の一つとして一定程度の作付を目指す。

- オ 加工用米
取組予定なし
- カ 備蓄米
取組予定なし

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、現行のブロックローテーションによる団地化の一層の推進を図るとともに、排水対策の実施により、生産性向上・低コスト化を図る。また、麦＋大豆の二毛作面積を一定程度維持することにより、水田の高度利用を推進する。

飼料作物については良質粗飼料生産を維持し、地域の畜産農家と連携して、現行の作付面積を維持する。

(4) そば、なたね

重点作物と位置づけている青木村限定栽培そば「タチアカネ」の作付面積の拡大と収益力向上を図るため、ブロックローテーションによる団地化の推進、担い手の全作業受託による作業集約化、圃場の排水対策を実施する。

併せて、「タチアカネ」のブランド力向上と消費拡大を目指し、「そばの花・実まつり」・「新そばまつり」・各種そば打ち体験などのイベント開催を通じて、「青木のそばタチアカネ」を県内外に一層広くPRする。

また、麦＋そばの二毛作面積を一定程度維持することにより、水田の高度利用を推進する。

(5) 高収益作物

少雨で昼夜の気温差が大きく、標高差もある当村では、多種多様な作物が栽培されている。今後も産地交付金を活用しながら水田における多様な作物の作付を推進し、米の生産調整を図っていく。

また、ニーズの高い品目である、アスパラガス、ズッキーニ、ブロッコリーを地域振興作物とし、これらの栽培に対し支援を行うことで水田の有効活用と産地化を図っていく。

(6) 畑地化の推進

水田の畑地化については、直ちに要件に該当する水田がないため、今年度の申請は行わない予定である。しかしながら主食用米の需要が減少傾向である中、ブロックローテーションを継続してによる水稻生産調整を図るとともに、地域と調整を行いながら、畑地化後の作付計画、特定品目の団地化の見通し等、総合的に考慮して検討していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	104	105	105
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新規市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	22	22.5	23
大豆	2.5	5	6
飼料作物	2.5	2.5	2.5
そば	46.3	47	48
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	29	30.2	31.2
・野菜	19	20	20
・花き・花木	4.6	5	6
・果樹	3.3	3.3	3.3
・景観形成	0.2	0.2	0.2
・その他	1.7	1.7	1.7

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	そば (基幹作物)	そばの収益力向上への支援	10a あたり収量	29 年度 45.7kg	32 年度 53.5kg
2	そば・大豆 (二毛作)	二毛作による水田高度利用への支援	実績面積	29 年度 22.3ha	32 年度 25.0ha
3	野菜、花き・花木、果樹、雑穀、薬用作物、その他作物（別添リストによる）	水田での地域振興作物栽培への支援	実績面積	29 年度 8.38ha	32 年度 9.0ha
4	景観形成そば	景観形成そば（タチアカネ）栽培への支援	実績面積 花実まつりでのタチアカネ そば売上数	29 年度 0.22 ha 276 食	32 年度 0.35ha 350 食
5	そば (基幹作物)	そばの作付面積拡大への支援	実績面積	29 年度 24.6ha	32 年度 26.1ha

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり